

1 学校教育目標
本校すべての教育活動を通して、校訓「誠実・剛健・礼節」を基盤に、知・徳・体の調和に留意し、心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。また、「ものづくりを通じた人づくり」を実践しながら、社会の変化に的確に対応し、自立して将来を切り拓く主体性のある生徒を育成する。さらに、各科の特色を活かした取組を行いながら、地域社会から信頼される学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 専門高校として、ものづくりを通じた人づくり教育を推進する。 (2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組を充実する。 (3) 心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。 (4) 地域に信頼され、特色ある学校づくりを推進する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標の共有	教育目標の周知、共有と達成度	・職員の共通理解を図り生徒が教育目標を理解する	・様々な行事や機会を捉えて、職員、生徒、保護者への周知、理解を図る	B	・様々な制限がある中で、全職員で工夫して各種行事を実施し、学校の方針や生徒の活動状況は伝える事ができたと思う。アンケート結果も概ね好評であった。
	特色・魅力ある学校づくり	ものづくり教育の推進、部活動の充実、入学志願者数	・各種大会での上位入賞 ・資格取得率の向上 ・定員以上の入学志願者の確保	・職員の指導力向上の取組 ・指導体制の改善 ・各学科の地域と連携した取組とそのPR	B	・中止や延期となった大会も多かったが、その中でも生徒の活躍が多く見られた。 ・休校等、指導時間も制限されたが、検定等の合格状況は良好。 ・前期選抜志願者は昨年度比5%減少。
	学校改革の推進	校務改革の推進、職員の超過勤務の削減	・職員が改革の進展を実感できる ・超過勤務昨年度比1割削減	・校務の手引きの改訂と活用 ・本校部活動方針の実践 ・行事の厳選	B	・学校行事はコロナ禍での変更が求められた。 ・部活動方針は完全ではないが、ほぼ実践されている。 ・職員の超過勤務は2割以上減少した。
学力向上	基礎学力向上	基礎学力の向上	・普通教科における基礎学力の向上	・習熟度別授業及び個別指導の充実 ・考査前学習会の実施	B	・数学と英語で習熟度別指導を行った。 ・第1回学習対策連絡会の対象者は23名いたが、考査前学習会を実施し、教科担当者による指導を行った結果、第2回連絡会の対象者は8名に減少した。
	自学力の育成	学習意欲向上と自宅学習の定着	・宅習時間1時間の確保と宅習の習慣づけ	・各教科による宿題や課題の工夫(一部ICT活用)	C	・宅習について、職員アンケート結果は、家庭学習が習慣化しているとの回答は10%に留まった。保護者生徒についても同様。各教科による宿題や課題等を工夫する必要がある。現1年生や来年度の1年生に対してはICT活用を推進したい。
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	・年1回の公開授業、研究授業週間の実施 ・年2回の授業評価アンケートの実施	・研究授業週間における教員相互の授業参観を充実させる。 ・授業評価を活用した授業改善	A	・研究授業週間は新型コロナウイルスの影響で1回のみ実施となったが、職員の参観率は98%と、昨年度より向上した。 ・授業評価アンケートを2回実施し、平均は4点満点中3.5点以上となった。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識向上と進路目標の明確化	・マナー教育を柱に豊かな人間性の育成と、主体的な進路選択ができる能力を	・インターンシップ、工場見学の実施 ・進路便りの発行 ・講話、面談による職業観と進路意識	A	・コロナの影響もあり、余儀なく変更した点もあったが、計画のほとんどを実施することができた。最も大きな取組の一つであるインターンシップでは、2

			養う	の確立		年部が中心となり充実した取組となった。
	目標進路の達成	就職、公務員指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路内定率100% 県内定着率の向上 早期離職の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導と試験対策による就職、進学内定率100%の実現 熊本しごとコーディネーターと連携した進路指導の充実 面談のための環境整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校紹介の就職は早い時期に全員合格を果たすことができた。県内就職も着実に増加しており、今後も現状の体制での指導が有効であると思われる。公務員については、自衛隊以外にも2名が合格することができ、極めて良好な結果であった。
生徒指導	規範意識	ルールやマナーを守る態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の未然防止及び全職員による生徒指導の実施 情報モラルに関する指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部通信等による重点指導事項の周知 各種集会による指導の徹底 事後指導を含めた特別指導の充実 情報モラル教育講演会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で全校での集会等ができず、統一した指導が難しい状況であったが、各科・学年等と連携しながら指導を行い、生徒の規範意識を高めることができた。 一部の生徒の問題行動やマナー違反等があり、さらなる指導の徹底が必要である。
	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者の削減 社会人としても通用するレベルの清々しい挨拶、端正な服装の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導による挨拶及び整容指導 頭髪服装指導に向けた事前指導の徹底 各種集会時の指導徹底 	A	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導や遅刻指導を徹底することができた。 頭髪再指導を生徒指導部主導で行い、指導基準が明確化するなど、組織的指導体制を作ることができた。
	交通安全	交通安全意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故をなくす 交通違反をなくす 自転車の2重ロック率100% 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話の実施 登下校指導の実施 原付通学生への指導徹底 交通委員会活動の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いての交通講話は実施できなかったが、多くの場面で交通安全に関する指導を行い、事故や違反は少なかった。 原付通学生への指導が徹底できたため、通学状況は大変良好であった。
	自主性、社会性の育成	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事の充実 委員会活動の活性化 ボランティア活動への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事の計画的な企画立案や運営と生徒会役員の自主性の涵養 各種委員会やボランティア活動の周知と奨励 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、例年とは違う形態であったが、体育大会や北辰祭を実施することができ、生徒が中心となる場面を作ることができた。 コロナ禍でボランティア活動の奨励ができた。
人権教育の推進	人権教育の計画的推進	<生徒対象> 身の回りにおける人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画による確実なLHRの実施 1年：身の回りの差別 2年：差別の現実 3年：就職差別と人間解放 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会におけるLHRに向けた資料作成および事前学習会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で、新型コロナウイルス感染症について、オリンピック・パラリンピックと人権、北朝鮮による拉致問題、いじめ問題、部落問題についてのLHRを行い、3年生は就職差別と人間解放も行うことができ、人権意識の啓発を年間を通して行った。
		<職員対象> 人権教育に関する研修を通じた意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育実践委員会定例会の実施 校内職員研修の年2回以上実施、校外研修へ年1回以上参加 	<ul style="list-style-type: none"> 校内職員研修会の実施 地区や県の人権教育研究大会への参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修がほとんど中止となり、校内研修においては職員レポート研修、人権LHRのDVD視聴、熊本県人権啓発Web講座を通して、人権教育の向上につながった。
	命を大切にすることを育む指導	命を大切にすることを育む指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携して講演会等を年2回以上実施 各教科におい 	<ul style="list-style-type: none"> 教科、学年、生徒指導部等が連携して、計画的に取り組む 関係機関との連 	A	<ul style="list-style-type: none"> 6月に新型コロナウイルス感染症に関連する差別や偏見のLHR、11月の人権LHRを中心に、LHR・授業等で、年間を通して命を大切にすることを育

			て、命の大切さについて生徒に考えさせる教材を取り扱う	携、各教科の指導内容の検証と情報共有		成を行った。
いじめの防止等	未然防止	啓発活動の推進	・いじめを許さない環境を整え、いじめが発生しない雰囲気醸成 ・言語環境を整える	・いじめについて考えるLHRを実施 ・いじめ防止の行動目標の設定 ・学校生活の様々な場面におけるいじめ防止の取組の実践 ・相手を思いやる言葉遣い等言語環境の整備	B	・各科・学年・クラス等で、いじめの未然防止や、いじめに発展する可能性がある生徒間でのトラブル等について、部署・職員間で情報を共有しながら対応することができた。 ・学校全体でいじめについて考える取組が実施できなかった。
	早期発見	いじめ発見の取組の推進	・年間3回以上のアンケート調査実施 ・担任による面談を随時実施	・学期に1回のアンケート調査の実施 ・通報アプリの周知 ・学級担任、教科担任、部活動顧問等による情報の共有	A	・学期毎に面談週間やアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に取り組むことができた。 ・各科会・学年会等で、生徒の状況等についての情報を共有することができた。
	発生した場合の対応	いじめの実態把握	・迅速ないじめの実態把握	・委員会を中心に、学科・学年・各々が連携	A	・関係部署・職員が連携しながら、迅速な実態把握を行うことができた。
		被害者への対応	・被害者の心のケア	・スクールカウンセラー等と連携した心のケア	A	・担任や副担任、科職員、部活動顧問等で連携しながら対応することができた。
		加害者及び周囲の生徒への対応	・加害者及び周囲の生徒に対して必要な指導と心のケアを迅速に実施	・いじめ問題対策委員会が中心となり、被害者の思いを理解させる	A	・担任や副担任、科職員、部活動顧問等の迅速な対応によって状況は改善しており、現在も継続して指導を行っている。
再発防止	再発防止のための取組	・取組についての検証を各学期に実施	・委員会や関係部署間の情報交換と取組の検証	A	・委員会での検証を全職員に周知し、再発防止に向けた取組につなげることができた。	
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	開かれた学校づくり	総合型コミュニティ・スクール	・年3回の学校運営協議会の開催	・学校運営協議会委員との連携を密にし、色々な立場から学校運営等の意見を聴く ・地域と連携した学校運営 ・学校評価に対する学校運営協議会委員からの意見聴取	A	・学校運営協議会を3回実施し、その意見を職員間で共有して学校の活性化につなげた。 ・インターンシップ等に地元企業の情報を聴取して、次年度の運営に活用していく準備ができた。 ・学校運営協議会委員からの学校評価を受け、本年度の反省と次年度の取組に対し、助言いただくことができた。
		家庭との連携	・PTA総会書面表決書の回収率80%以上 ・学年別保護者会への参加率60%以上	・学校安心メール等を活用し、保護者へ学校情報を提供 ・PTA役員と連携し保護者の参加を促す ・PTA保護者集会の内容を精査する	A	・PTA総会書面表決の回収率が80.5%で、99%以上の議案賛成が得られた。 ・「学校や担任と保護者の連携がうまくいっている」と思う保護者が93%となり、昨年度より6ポイント増加した。また、PTA活動に協力的な保護者も3ポイント増加した。
特別支援教育	特別支援教育への理解と支援の推進	教職員の専門性の向上	・特別支援教育に関する職員の意識高揚と授業等での実践	・研修会等の職員への周知 ・研修会への積極的な参加 ・校内職員研修の実施	B	・研修会等への職員への周知は概ね行うことができたが、コロナ禍の中で研修が中止となり参加できない状況があった。 ・支援が必要な生徒について、エリア会議や巡回相談など定期的に会議を設け情報共有すること

						<p>ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師による職員研修を行うことができなかった。実施を次年度の課題にする。
		生徒の学校生活の保障	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒への早期対応及び合理的配慮の提供 情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解研修の実施 教育相談の充実 進路保障に向けた適切な指導 健康教育部と学年及び学科との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学期開始前に生徒理解研修を行い、情報共有をすることができた。 SCの面談を定期的実施できた。また、生徒支援のために外部機関と連携しケース会議を実施できた。 さまざまな課題を持った生徒に対し、自立に向けて進路指導部、学年、科と連携し支援することができた。
教育環境整備及び安全	環境教育の徹底	環境美化への意識付け	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ分別、掃除の徹底 5S活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動の活性化 ゴミ分別の徹底、校内美化活動 	B	<p>生徒美化委員会は、掃除の時間など積極的にゴミ分別に取り組み環境美化に貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 美化活動への取組の活性化をさらに推進したい。
		省エネや省資源に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> 省エネと新型コロナウイルス感染防止の両立 	<ul style="list-style-type: none"> 節水の呼びかけによる省エネ・省資源の意識付け グリーンカーテンの推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で感染拡大防止対策として、手洗いの励行や常時換気の関係で電気代が上昇することもあったが、節電・節水することができた。 各職員室にグリーンカーテンを設置することができた。
	図書館教育の充実	図書館の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人あたりの年間貸出数10冊以上 朝読書の徹底 蔵書の整備と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動や図書委員会活動の充実 学習に資する図書の選定 蔵書の電算化と整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回以上、図書館だよりやHPの更新を行った。12月末で一人当たり8.9冊の貸し出し状況なので、年度末に10冊以上の目標を達成できる見込み。 朝読書時間は2学期後半から全学年で読書をする雰囲気が出てきている。 蔵書の整備については専門科目の資料を積極的に購入した。 今後HPや保護者向け広報誌で朝読書の様子を発信することも必要と考える。
	安全管理の徹底	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止対策 健康観察の充実 熱中症対策 	<ul style="list-style-type: none"> 紙面やHP、放送等を活用した保健指導 マスクの着用及び手指消毒徹底 教室やトイレのアルコール消毒の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健便りを毎月配付し、新型コロナウイルス感染拡大防止の保健指導を行うことができた。 また、保健委員による放送で感染状況や感染予防の呼びかけを行い、生徒たちに注意喚起を促すことができた。 マスク着用の指導は全職員協力のもと実施できた、また、昇降口や教室の入り口にアルコール消毒液を常備し、感染防止に努めることができた。

4 学校関係者評価

学校関係者からは、生徒の進路実現のための取組への評価が最も高く、全員からA評価をいただいた。また、生徒の専門性を活かした課外活動や部活動での活躍、校舎内外の整備、特色ある学校づくり等でも高い評価をいただいた。反面、教育活動の地域への発信では評価が幾分低かった。意見の中でも、地元就職者増加への期待や、授業改善の取組に対する評価に加え、志願者の増加につながるような更なる情報・魅力の発信、本校が力を入れている資格取得に関して、その資格の有用性等を中学生に分かりやすく教えてほしい等の要望もいただいた。

5 総合評価

コロナ禍の中でたくさんの大会や学校行事が中止又は制限されたが、生徒は主体的に取り組み、成果をあげることができた。特に進路面では、進路指導部を中心に全職員で指導に当たり、早期に全員の進路を決定することができた。学力向上の面では、資格・検定の合格実績等は向上したものの、自学力の育成の面で、昨年度に引き続き唯一のC評価となった。生徒指導面では、一部の生徒ではあるが、問題行動を重ねる者もあり、指導件数が若干増加した。遅刻の削減等も含め、規範意識の醸成、基本的生活習慣の確立に更に取り組んでいかねばならない。働き方改革については、職員の意識改革は浸透しているようで、超過勤務は昨年度比で2割程度減少した。最も重要な課題と考える生徒募集に関しては、体験入学や学校説明会、学校HP等による情報発信に努めたものの、前期・後期選抜とも出願者は昨年度同様、二年連続で減少した。本校生の活躍や本校の魅力が、中学生や地域により伝わるような取組が必要である。

6 次年度への課題・改善方策

新年度から1人1台端末整備事業がスタートする。全職員が年間指導計画に基づいて、授業や家庭学習等で積極的に活用していく。また、全校集会や講演会等に替わる活用も推進していく。更に、職員間での教材の共有や、Webアンケート等の活用により、職員の負担軽減も図っていく。

インターンシップをはじめキャリア教育の充実を図り、個別の面談を計画的に実施し、早期の進路目標の確立につなげ、その実現に向けた取組を充実させる。

日課を見直し、遅刻指導を徹底し、その削減を図る。情報モラル教育や人権教育の充実、言語環境の整備により、生徒間のトラブル防止に努める。

今年度、交流自粛のためほとんど実施できなかった「ものづくり地域貢献活動」やボランティア活動については、感染症拡大防止に留意した上で、実施できることから積極的に推進していく。また、これらの活動は、生徒の活躍や様々な学校の教育活動と共に、積極的に地域に発信していく。